

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

宮若市立宮田南小学校

1 実践テーマ	【I・V】
2 実施対象者	・宮若市立宮田南小学校 全学年（1年～6年）14学級 280名 保護者 20名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育科、総合的な学習の時間、道徳） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・有名なスポーツ選手等を学校に招待し、実践的な授業を行うことで、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を向上させるとともに、スポーツにおける一流選手の高い技術や生き方に触れることを通して、夢をもち自己の生き方について考えさせる。
5 取組内容	実践1「バレーボールに学ぶ」(全5時間) 対象 6年37名 (1) 事前学習…9月19日(火)、9月21日(木) ・総合的な学習の時間(事前2時間) ・総合的な学習の時間(本時1時間) ・体育科(本時1時間) ・総合的な学習の時間(事後1時間) ・総合的な学習の時間(事後1時間) ・総合的な学習の時間(事後1時間)

実践1「バレーボールに学ぶ」(全5時間) 対象 6年37名
 (1) 事前学習…9月19日(火)、9月21日(木)
 ・総合的な学習の時間「オリンピックについてしらべよう PART I」(2時間)
 6年生の子ども達は、オリンピックとは何か、何のために行われているのかについて調べた。特に「オリンピック・パラリンピック推進事業」で招聘する元オリンピック選手の「山本隆弘」氏やバレーボールについて、詳しく調べる活動を行った。子ども達が調べた内容は次のとおりである。

バレーボールについて
どんなスポーツ?
 コート中央のネットを挟んで2チームでボールを打ち合う。ボールを落としたり、持ったりできない。3度のポレーで攻撃へと繋ぐスポーツである。次の3点で勝敗が決まる。①ボールがコートに落ちる。②ボールがアウトになる。③正しく返球できない。(最大3回さわることができるが、連続して同じ人が触れることはできない。)1セット25点(5セット目は15点)である。

ポジション名
 セッター…トスを上げて攻撃を組み立てる選手。
 アタッカー…攻撃の中心となる選手。オポジットやスーパーエース。
 センター(ミドルブロッカー)…ブロック中心の選手。
 リベロ…ボールを拾う専門の選手。アタックはできない。

山本隆弘氏について

2006年世界選手権代表候補に選ばれ、スーパーエースとして試合終盤の驚異的なスパイク決定率などでベスト8入りの大きな原動力になった。全日本登録メンバーに選出され、2008年北京オリンピック代表、2012年のロンドンオリンピック世界最終予選に出場。

(2)本時学習…9月29日(金)

① 体育科「バレーボールにふれよう」 5校時

山本隆弘氏を招聘し、バレーボールのウォーミングアップや基礎的な技術、2～3人ずつの楽しいパス・レシーブの仕方を学んだ。特に紅白に分かれて、どちらのチームがより長くレシーブを続けることができるか等のゲームを行った。実技指導において山本隆弘氏は、「どれだけ強い球がきても、レシーブで味方の受けやすい場所にやさしい球にして返してやれるかの思いやりがとても大切である」と話された。

② 総合的な学習の時間「オリンピック選手から学ぼう…①」6校時

山本隆弘氏の講話では「試合に負けた時の方が伸びる。その理由はなぜ負けたかを考えることで自分のできていないことに気づくことができるから。逆に勝つことが怖い。その理由は周りの選手から追われる立場になるから」「目標や夢を持つことが一番大事である」等の話を聞くことができた。

(3)事後学習…10月2日(月)

① 総合的な学習の時間「オリンピック選手から学ぼう…②」2校時

山本選手からのオリンピック出場までの練習における苦労や努力についての講話を聞いて、子ども達は自分の生き方について振り返ることができた。

私が山本選手の凄と思ったところは、「負けたら伸びる」と話されたことです。自分だったら「もう負けた～」で終わるけど、山本選手は負けたらすぐ次の試合に向けてどうしたら勝てるのかを考えているから凄いなと思いました。



【山本選手の講話】



【山本選手の個人指導】



【山本選手の実技指導】

・総合的な学習の時間
(事前2時間)

・総合的な学習の時間
(本時1時間)

・体育科
(本時1時間)

・道徳
(事後1時間)

・健康安全・体育
的行事
(事後3時間)

実践2「マラソンに学ぶ」(全8時間) 対象 全学年児童

(1)事前打ち合わせ…8月3日(木)(於 トヨタ九州自動車)

・「森下 広一監督、川口 副部長と陸上教室の事前打ち合わせ」(校長、教頭)

【学校の要望】

本校で、12月15日(金)持久走大会を行う予定である。トヨタ九州自動車陸上部の選手の走りを見て、走に対する意欲付けを行っていきたい。

また6年の子ども達は、総合的な学習の時間「オリンピックについて調べよう」の単元で、オリンピックやパラリンピックとは何か、何のために行われているのかについて調べている。特に「オリンピック・パラリンピック推進事業」で招聘する元バルセロナオリンピック男子マラソン銀メダリスト森下広一氏の陸上に対する思いや夢について語っていただきたい。

【打ち合わせ内容】

・オリンピック・パラリンピック・ムーブメント講師派遣事業の趣旨

・陸上教室内容(時間、対象、練習形態) ・派遣人数 ・予算、経費等
(2)事前学習…10月10日(火)、17日(火) 対象 6年37名
・総合的な学習の時間「オリンピックについて調べよう II」(2時間)
◎監督:森下 広一 ○コーチ:石本 孝幸、真内 明
○顧問:横井 秀司 ○部長:塩田 弘樹 ○副部長:川口 直輝
2017年 全日本実業団対抗駅伝大会で第3位の素晴らしい実績のあるチーム。

駅伝について

どんなスポーツ?

各走者は途中の「中継所」またはゴールまで走り、走り終える毎に前の走者から受け継いだ「襷」を次の走者に渡していく。各走者が走る距離、総距離、区間数、性別等の組み合わせは大会によって様々であるが、国際陸上競技連盟が定める国際レースの基準では男女別にフルマラソンと同じ42.195kmを6区間(5km、10km、5km、10km、5km、7.195km)で走る。

マラソンについて

どんなスポーツ?

マラソンの距離は42.195kmと設定されているが、古代マラソンに直接由来するものではない。オリンピックでマラソン競技が実施された当初は、大会ごとの競技距離は一定ではなく(同じコースを全選手が走ることが重要とされていたため)、約40kmで行われていた。競技距離が統一されたのは、第8回パリオリンピック以後であり、42.195km(26マイル385ヤード)とされた。この距離は第4回ロンドンオリンピック時の走行距離(市街地42km+競技場の200mトラック1周弱)をそのまま採用したものである。

森下広一氏について

鳥取県出身で、中学時代は水泳部に所属し、駅伝時に招聘されることが多かった。その後、旭化成陸上部に所属し、宗茂、宗猛の指導の下、頭角を現す。1992年、今から25年前のバルセロナオリンピック男子マラソン銀メダリストである。

(3)本時学習…10月26日(木) 3校時 対象5・6年 88名

① 総合的な学習の時間「夢をかなえよう」(1時間)

トヨタ九州自動車陸上部を招聘し、陸上にかける思いや情熱について森下広一氏とともに10名の現役選手に語ってもらった。特に、森下広一氏は中学校時代、水泳部に所属し陸上専門ではなかったことを話された。「マラソンは自分に嘘がつけない競技なので、練習をしなかったらすぐに結果に出てしまう。自分にごまかさず、練習をかさねることが大切である」、「銀メダルをとると、人の期待が高まってその期待に応えられない苦しさを味わった経験、そのことが今の指導に繋がっている」等の話を聞くことができた。

② 体育科「持久走」 4校時 対象 全校児童 280名

本校運動場において各選手の紹介、森下監督から理想的な陸上フォーム、準備運動等について指導していただいた。その後2つの練習を行った。

ア 陸上部の選手が鬼になり、子ども達を追いかける追い越し走

イ 各学年代表3名と陸上選手とのペース走

児童の感想

森下監督の話を聞いて、夢をもつ大切さ、そして夢で終わらせるのではなく実際に明確な目標にすること、さらにその目標を最後まで諦めないことの大切さを学びました。中学校に向かって目標を確実にしたいと思いました。



【森下監督の講話】 【走るフォーム指導】 【陸上選手との追い越し走】

(4)事後学習 …10月27日(金) 対象 6年 37名

① 道徳「夢を叶えよう」

実践1, 2と関連した道徳の授業を行った。子ども達は、元オリンピック選手の話に関連させて、自己の生き方について深く考えることができた。

児童の感想

私は山本選手や森下監督の話と今日の学習を結びつけて、最後は自分の弱さに勝つか負けるかが大切であり、自分自身との戦いなのだと分かりました。

② 健康安全・体育的行事「持久走大会」 12月15日(金) 1~3校時

対象 全児童 280名

実践2を受けて、持久走大会を行った。当日までの頑張りも含めて地域の方の支援を受けて作成した記録証を全児童に渡した。また各学年上位3人を表彰し努力をたたえた。子ども達は「長い距離を何回も走ってきたけど、本番で速くなり頑張った良かった」「途中で歩いたら今まで練習してきたことが無駄になると思い頑張った」等の感想をもった。



【持久走大会の様子】 【地域の方による記録証作成】 【表彰式】

6 主な成果

- 山本隆弘氏や森下広一氏といった実際のオリンピック選手からメダル獲得にかかる思いや努力、周りからのプレッシャーに負けない強い心情等について話を聞くことにより、5、6年の子ども達は夢や将来の生き方について学ぶことができた。
- オリンピック選手からバレーボールやマラソン等の実技指導は、新スポーツ導入時において、子ども達は楽しく参加し、正しいフォームや効果的な練習方法を学ぶことができる。
- 「総合的な学習の時間」、「体育科」、「道徳」と体験を関連させた単元指導計画は、「不撓不屈、忍耐」の心情をより強く育成することができる。

7実践において工夫した点(事業の特色)

- 身近な地域のオリンピック選手を招聘した学習を通して、スポーツの素晴らしさとともに、オリンピック・パラリンピックの意義についても興味・関心を持たせるように努めた。
- キャリア教育の面から「総合的な学習の時間」、「体育科」、「道徳」等と結びつけた効果的な単元計画を作成した。

8 主な課題等	・ オリンピック・パラリンピック選手招聘に向けての予算措置
9 来年度以降 の実施予定	・ 予算面や実施時期等で課題は多いが、キャリア教育を進める上で教育効果が高いので、可能であるならば是非行いたい。